

## はじめに

それは、本社9階において社長を交えた、全国の技術部長会議を、まさに終えようとしていた時であった。

10月23日17時56分、突然激しいながらも大きな振幅で、ゆったりした感じの本震とその余震に襲われ、一同T.Vの画面に釘付けになった。

急いで会議を締め、状況によっては早期の対応の必要性を話し合いつつ、それぞれが帰途についた。

北陸支店からの出席者は、郡山廻りとなり翌朝職場に直行となった。

まずは社員やその家族、親戚、協力会社の安否の確認に努め、被災の状況把握をしながら本部との連携をはかりつつ、県、市町村からの支援要請への対応を開始した。

被災地の夜は真暗で、交通網や通信網等の遮断等のため、混乱が続いていたが、時間の経過とともに災害の実態が明らかになって来た。

その状況から翌24日午後には、事業本部と北陸支店を中心とした全社体制で臨む事とした。

なお、北陸支店や社員で被災地域に関係者のある者の安否は26日中に大部分が判明し、一部に家が壊れ避難所に避難している人のある外は、大事に至る人はなかった。

また、仕事中の現場にも大きな被災はなかった。

こうした時こそ、設立以来40数年間お世話になる中で、使っていただき、育てて来た技術力を活用し、地域の窮状に少しでも役立ちたいとの思いから行動を起こしたものである。

同時に会社としても、今後の災害対策への対応力を高めるため、独自の調査団による技術的調査を行った。

以下に復旧対策検討への対応と被害調査の概要を報告する。

### 復旧対策検討への対応

個々の公共施設の被災状況の点検調査と復旧対策の検討は、混乱を避け、公平性を保つ目的で管理者から建設コンサルタンツ協会・地質調査業協会の北陸支部を通じて個々のコンサルタントに振り分けられる形を基本に進められた。

その際は各社が得意とする分野やその地区での実績、災害支援への取り組み状況等が考慮された。

当社は、社長をトップに、全社的なワークシェアリングにより積極的に対応した。

その状況は、毎日北陸支店から報告されるのでこれを各部所で確認し、連携をとりつつ依頼者の意に沿うように適宜・適材・適所へ派遣する形で齟齬のない様に行った。

主な業務の内容は表-1のとおりである。

内容はトンネル、橋梁、地すべり、道路、構造物等の点検と、崩壊調査（道路や法面の踏査、ボーリング、観測等）である。

この結果に基づき工法検討や設計等を定められた期間内に実施し、災害査定や調査団、関係機関への説明等の資料となる。

なお、表中の妙見町地内の崩壊に係る調査、設計箇所は幼児二人と母親が崩落して来た岩石に閉じ込められ 4 日後に男児のみが奇跡的に救出された現場でこの震災でも最も注目されたところである。

当社は地すべりとトンネルに精通しその方面で地域にも詳しい会社として県及び建コンからの推薦を受け当該箇所を担当する事となった。

そして、2 6 日早朝より管理者や関係業者との打合せに参加し、午後から現地調査に入った。引き続き伸縮計、警報装置等の手配をし、その動態調査の結果で間接的に救出作業の支援を行ったものである。

表 - 1 平成 1 6 年新潟県中越地震災害関連業務

発注者		業務名
当初	管轄	
建コン北陸支部	長岡地域振興局	中越地区トンネル点検
建コン北陸支部	十日町地域振興局	十日町地区橋梁点検
建コン北陸支部	長岡地域振興局	妙見町崩壊地現地調査
"	"	同上・設計
建コン北陸支部	柏崎地域振興局	柏崎管内地すべり等点検
建コン北陸支部	小千谷維持管理事務所	市町村道緊急点検
長岡振興局・小千谷	小千谷維持管理事務所	川口塩殿線調査・対策検討
"	"	同上・設計
長岡振興局・小千谷	小千谷維持管理事務所	荒谷トコ復旧工法検討
建コン北陸支部	長岡地域振興局	栃尾市内道路緊急点検（沢水）
建コン北陸支部	長岡地域振興局	橋梁補修設計（2 橋）
鹿島建設（株）北陸支店	JR	妙見地内 JR トコ地質調査
長岡地域振興局	長岡地域振興局	小千谷川口大和線朝日法面崩壊
柏崎市役所（地協）	柏崎市役所	四日町地内地盤地質調査（液状化）
鹿島建設（株）北陸支店	新潟県土木部	妙見崩壊収容対応警報装置
地質調査業協会	長岡振興局・小千谷	蘭木橋地質調査
建コン北陸支部	山古志村	山古志村村道緊急点検

支援したコンサルタントは測量や現地確認等の業務の多い事から機動力のある地元コンサルタントが中心で、中央からのコンサルタントは、専門的技術が要求されるものについての依頼に対応し、その数は、1 0 数社にとどまった。

当社は一次調査では十日町地域振興局の橋梁と洞門・シェルター及び長岡地域振興局のト

ンネルを担当し、派遣人員は 88 人（延べ人員は 587 人/日で、道路は 123 人/日、橋梁 63 人/日、トンネル 135 人/日、土質及び地質 266 人/日）と主たる 19 社の全体人員 1,347 人の 6.5%で、中央では最多であった。

11月9日に社長がお見舞いに伺った節は県庁や出先の長から感謝の言葉があった。

こうした災害対応は長年の経験と7月13日の豪雨災害時から行っていた事もあり、今回の地震災では比較的スムーズに出来た。

ちなみに7月13日の新潟・福島梅雨前線豪雨災害に関連し業務の受注につながったものは表-2のとおりであった。

表 - 2 7.13 新潟・福島梅雨前線豪雨災害関連業務

発注者		業務名
当初	管轄	
エヌシーイー	長岡地域振興局	地すべり等緊急点検
建コ北陸支部	柏崎地域振興局	堤防等の緊急点検
長岡振興局・与板	与板維持管理事務所	中永トンネル補修処理施設点検設計
長岡振興局・小千谷	小千谷維持管理事務所	小千谷大和線緊急保-リソク調査
建コ北陸支部	与板維持管理事務所	大寺地区災害関連申請資料作成
長岡地域振興局	長岡地域振興局	田井川砂防ダム設計
長岡振興局・小千谷	小千谷維持管理事務所	小千谷大和線設計
上越振興局・安塚	安塚地区振興事務所	405号道路・構造物詳細設計
長岡地域振興局	長岡地域振興局	田中沢川河川調査
長岡振興局・与板	与板維持管理事務所	大寺地すべり地質調査
〃	〃	同上・設計
長岡地域振興局	長岡地域振興局	刈谷田川土質調査（右岸）

#### 平成16年（2004年）新潟県中越地震被害調査

当社は、今回の地震に鑑み、技術力の向上と今後の参考とするため、ようやく現地入りが可能と判断された10月26日に山口技術統括部部長を団長とする調査団を現地に派遣した。

調査は、チームによる外、支援業務を遂行する中で得られた有益と思われる情報を中心に行った。

調査内容について、以下に示す。